

将来都市構造の基本的な考え方（案）【概要】

■ 将来都市構造とは

将来都市像の実現に向けて、本市が目指すべき都市空間の骨格を概念的に示すもの

1 本市の現状と課題

- ・交通の利便性にも優れ、様々な都市機能を集積
- ・見沼田圃や荒川など、首都圏有数の自然資源を有する
- ・今後、人口減少、他都市と比較し急速な高齢化が進むと予測される
- ・都市の機能の拡散・散在は、中心市街地の衰退、日常生活におけるアクセスの面で利便性が低下する恐れがある
- ・市街地が拡大した場合、行政コストの増大が懸念される
- ・これまで、市街地が河川と緑地に挟まれた都市構造の形成を進めてきた
- ・東日本の対流拠点として、必要な機能の強化が求められる。

2 目指す方向性

- ・原則として市街地の拡大を抑制し、各地域の拠点への様々な都市機能の集積と拠点間のネットワークの形成を図り、市民生活に必要な諸機能を、徒歩、自転車または公共交通機関による移動で享受できる環境の創出を目指します。
- ・交通の要衝、東日本の玄関口という地理的優位性やこれまでの都市機能の集積を生かした、拠点性の向上や交流の活性化などのまちの魅力の向上
- ・首都圏有数の自然を生かし、都市生活を享受しつつ、身近な自然にふれあうことが出来るよう、将来的にも市街地が河川と緑地に挟まれた都市構造の維持



豊かな自然環境との共生するなどによる質の高い市民生活を支え、多彩な交流を生み出す
「水と緑に囲まれたコンパクト+ネットワーク型の都市構造」を目指します。

3 将来都市構造を構成する要素

(1) 拠点

- ・本市においては、利便性の高い鉄道沿線などを中心に市街地が形成されており、今後も引き続き、「拠点」として、以下の位置づけに応じた都市機能の集積を促進するとともに、集積した機能の活用を進める。

① 都心

- ・大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区と浦和駅周辺地区を本市の 2 つの「都心」と位置付け、良好な住環境に配慮しつつ、高次で多様な都市機能を集積する。「都心」は、広域的な都市活動や市民生活の拠点としての役割を担う。

【目指す方向性】

- ・大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区

大宮駅周辺地区においては広域的な商業・業務機能や交流機能、さいたま新都心周辺地区では広域行政機能、業務機能、文化機能、交流機能などの機能集積を引き続き進め、両地区の連携を深めつつ一体的な都心としての形成を進めます。

また、東日本の対流拠点、及び国際社会との連携・交流のための結節点として、対流拠点機能のほか、災害時のバックアップ拠点機能など、必要な機能を集積し、近接する歴史や自然と一体化した都心の形成を目指します。

- ・浦和駅周辺地区

行政機能を担うとともに、商業・業務機能や文化機能を中心とした機能の集積を図り、都心としての形成を進めます。

また、集積が進んだ商業機能・居住機能、教育・文化機能や歴史文化資源を生かした、生活環境の充実と風格のある都心の形成を目指します。

② 副都心

- ・日進・宮原地区、武蔵浦和地区、美園地区及び岩槻駅周辺地区の 4 地区を「副都心」として位置付け、地域特性を生かした各種都市機能を集積する。「副都心」は、都市的サービスを享受できる、都市活動や市民生活の拠点として、都心と連携しながら、都心を補完する役割を担う。

【目指す方向性】

- ・日進・宮原地区

都市型住宅の立地と、商業機能等の集積による生活利便性の高さに加え、地区内と周辺地域との連携を図り、身近に文化・自然資源に触れることができる、生活環境が充実した副都心の形成を目指します。

- ・武蔵浦和地区

交通利便性の高さを生かすとともに、居住機能のほか、商業・業務機能などの多様な機能を有した対流拠点、魅力ある都市空間と緑が融和した副都心の形成を目指します。

- ・美園地区

埼玉スタジアム 2002 や豊かな自然環境などの地域資源を生かしつつ、先導的に最先端の知見や技術を取り入れながら、「公民+学」の連携によりスポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマとした副都心の形成を目指します。

- ・岩槻駅周辺地区

城下町や宿場町、人形のまちとして培った歴史・文化資源を生かした都市型観光機能等を強化し、にぎわいのある副都心の形成を目指します。

③ 地域生活拠点

- ・都心、副都心以外の鉄道駅周辺を「地域生活拠点」と位置付け、商業・サービス機能を主とする日常生活を支える機能を集積する。「地域生活拠点」は、地域における市民生活の拠点としての役割を担う。

④ 地域活動拠点

- ・区役所周辺を「地域活動拠点」と位置付け、区役所周辺においては、区役所との併設などにより、文化・交流機能を主とする地域コミュニティを育むための機能を集積する。「地域活動拠点」は、地域における市民活動の拠点としての役割を担う。

⑤ 産業集積拠点

- ・既存の工業団地やその他の拠点以外の交通利便性等に優れた地区を「産業集積拠点」と位置付け、製造業や流通業などの産業機能を集積する。「産業集積拠点」は、業務機能の主な集積拠点にもなる都心や副都心以外の企業活動の拠点としての役割を担う。

(2) 都市軸

- ・本市においては、広域的な幹線道路や鉄道に沿って、以下のとおり「都市軸」を設定し、東日本の対流拠点として、広域的に他の拠点都市などとの連携や都市機能の強化を図る。

① 南北都市軸

- ・本市の都心・副都心と東京中心部、北関東・東北地方や上信越地方とを結ぶ南北方向の2つの軸で構成

② 東西連携軸

- ・東京中心部から環状方向に位置する拠点的な都市と本市を結ぶ東西方向の2つの軸で構成

(3) 水と緑のネットワークの骨格

- ・将来的にも市街地が河川と緑地に挟まれた都市構造を維持していくため、市内を流れる河川と河川沿いの低地に広がる農地を本市の貴重な環境資産として、都市構造上の重要構成要素として位置付け、維持・保全していく。

4 土地利用の基本方針

- ・原則として、新たな市街地の拡大を抑制
- ・拠点等の位置づけに応じた都市的土地利用の促進
- ・市街地を取り巻く地域における自然的土地利用の維持・保全

5 エリアマネジメント

- ・「エリアマネジメント」とは、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるために、住民・事業主・地権者等の多様な地域の関係者が、主体的に行政や専門家・他組織等と協働・連携してまちづくりに取り組むこと
- ・エリアマネジメントが求められる背景
- ・エリアマネジメントの主な効果
- ・エリアマネジメントの組織体制